

中の島がある名物9番。入り口の長屋門（左下、写真は春）から和風のクラブハウスまでは竹林に囲まれた小径を歩く。機能別に棟がある和洋折衷の異空間がリゾートを感じさせる。



その254

クローズアップ21

とちぎSDGs推進企業に登録 ロペ倶楽部

環境保全の第一歩、変わらぬホスピタリティで知名度UP

今回はロペ倶楽部（18H、栃木県塩谷郡塩谷町）の登場です。ゴルフ場業界ではパブリックながらホスピタリティ、顧客満足度の高さと知られる。アパレルの㈱ジュン（東京都港区）のグループで、そのジュンが昨年11月に「GO CLEAN GO FUTURE」と社内啓蒙のためステートメントを表明。グループが一体となってSDGs活動を推進している。

国連で決議した持続可能な開発目標であるSDGs（Sustainable Development Goals）に取り組みゴルフ場が増えているものの、どう取り組むのか迷っている経営者、支配人も多いに違いはない。

ロペ倶楽部とジュンクラシックCC（18H、栃木那須郡那珂川町）を運営する㈱ジュンアンドロペ・エンターテイメントは県の「とちぎSDGs推進企業登録制度」に申請し、令和4年1月に承認登録されたところ。

本誌2月号グラビアで、ロペ倶楽部の「たかはら里山の集い」を紹介したところであり、同倶楽部のSDGs活動と、リゾートコースとして変わらぬ人気のロペ倶楽部の取組みについて取材した。

森林は手を加えないと本来のCO2吸収の機能がない

ロペ倶楽部は1990年9月に、ジュンクラシックCC（1975年オープン）に続くグループ第2弾のゴルフ場としてオープン。1977年から始まっていた「ジー・サラゼン ジュンクラシック」は1990、94年、97、98年はロペ倶楽部で開催された。同大会は82年にツアー競技として昇格、サラゼンが逝去した1999年の最終大会まで全23回のトーナメントが開催された。

当時を知るゴルフアーナならずとも開場当時からその粋な運営スタイルとホスピタリティは、長年ゴルフアーから支持されている。そうした中で環境保全を強く意識したきっかけが高原（たかはら）山の里山整備だったという。



ロペ倶楽部
中橋正也支配人

里山応援団の活動拠点。間伐や草刈りて林が綺麗になった



ことやりサイク

能工ネルギーの
使用のほか、洋
服は再生可能素
材を使っている

中桶支配人は「ロベ倶楽部は、元々27ホールを造ろうとコース北側を買収しました。その後18ホールに変更になり9ホール分のゴルフ場以外の山林は手付かずでしたが、高原山の登山道をボランティアで整備していた人達から、3年前にこの手付かずの山林整備を申し出ていただきました」と本誌2月号グラビアで紹介した「たかはら里山の集い」に繋がる話を説明していただいた。

成した「くまの木里山応援団」による山林整備が始まり、昨年4月17日に、塩谷町・ロベ倶楽部・くまの木里山応援団の三者の間で、地域共働事業に関する包括連携協定を締結。里山整備活動に国の補助金が得られることになり、応援団の活動継続の力になった。

「応援団の人達（メンバーは20人ほどで登録者もほとんど多い）が荒れ放題だった林の木々を整備し綺麗にしたことで不法投棄がめっきり減りました。またイノシシの減少にもつながっています。思わぬ効果ですね。また応援団は乾燥した薪を周りの別荘（コリーナ矢板）の人達にお安く販売して喜ばれています。機械の油代になればと自由に使っていたところですよ」と話している。

簡易計算式は林野庁が昨年12月27日に「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法」（森林1ha当たりの年間CO₂吸収量（t-CO₂/年・ha）＝森林1ha当たりの年間幹成長量（m³/年・ha）×拡大係数×（1+地下部比率）×容積密度（t/m³）×炭素含有率×CO₂換算係数）を公開している。

「とちぎSDGs推進企業」への登録

一方で、アパレルのジュンは、SDGs推進表明の中で再生可能エネルギーの使用のほか、洋服は再生可能素材を使っていることやりサイク

ル活動等を表明、グループのゴルフ場での里山再生の取り組みを紹介し、広大な森林面積のあるロベ倶楽部は年間1191トンのCO₂を吸収していると紹介した。

支配人によると「森林の面積と樹木の種類と写真を専門家に見てもらって算定した」という。

また「木がツタに絡まっていると木としての機能がないので、林の再生活動が貢献しました。ここで気付いたのが、自然が、って何もしないのが一番と思っていました。そうじゃなくて、ちゃんと手を入れないと、木としてのCO₂吸収、里山としての機能がないとわかりました」と話している。

望丘CC）が見つけられる程度とまだ少ない。

支配人は「制度そのものに気付いていないところが多いのではないのでしょうか。当事業所も43項目で半分程度が目標に達しています。残りはゴルフ場事業と関係のない項目もあり努力目標です。他のゴルフ場でも申請するのと同じようになるのではないのでしょうか。これはSDGsの第一歩と考えています」と話している。

ロベ倶楽部が県に提出した「SDGs達成に向けた宣言書」では「ゴルフを通して健康促進・環境にも配慮した取り組みを実施していく。環境保護の為にできる事を考え、実践していきます。地球環境保全に貢献できるよう努め、ゴルフ場でできる活動を実践する事で社会的責任を果たし持続的なゴルフ場を実現する。カーボンニュートラルに向けて、(株)ジュングループのCO₂削減に貢献する」とした。重点的な取組（2030年に向けた指標）では【社会・経済】ダイバーシティ経営の促進（多様な人材（女性・外国人・障がい者・高齢者）等の積極的な採用で現在の25%増を目指す）、【環境・経済】

とちぎSDGs推進企業登録制度」の43項目あるチェックシート。SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項の【人権・労働】10項目、【環境】11項目、【公正な事業慣行】6項目、【製品・サービス】4項目、【社会貢献・地域貢献】3項目、【組織体制】9項目の計43項目のチェックリストでの具体的な取組も挙げており、期待レベルは基本が21、応用が22となっている。ジュングループの取り組みも公開されている

プラスチック製品の使用量素材の見直しによる削減（ゴミ袋・歯ブラシ・カミソリ等の無料提供の20%削減）、【環境・経済】食品ロス削減と食材の見直し（食べきれる量の提供）と利用者人数の把握による仕入れ量の調整（地元産及び特産品を使用し食品ロス削減、食品廃棄量15%削減）を掲げた。実はプラスチック製品などの扱いは悩ましいという。浴室でビニール袋の提供をやめるゴルフ場も出始めているが、お客様にレジ袋で浸透したような認識はまだ低い

と感じているという。加えて、4月にプラスチック新法が施行され、大規模事業者に対して歯ブラシなどの提供の有料化やポイント還元なども要請される。同倶楽部では大手ホテル等の対応を見ながら検討しているが、コロナもあるし、お客側に意識が浸透していない懸念も残っているという。

SDGsへの対応は「削減、削減」ばかりがクローズアップされ、とかくサービス低下を連想される懸念が残ることだ。これはSDGsに取り組む企業や自治体が増えて広く一般に浸透すれば環境・社会・経済で目標に近づく相乗効果が生まれるが、今はその途上にあるようだ。

同倶楽部は働き方改革関連法で定まったメンタルヘルスチェック、パワハラ対策も以前から産業界の

聞き取り等で対応。従業員の残業時間や人員シフトも問題なく達成できているという。ただコース管理の求人に関しては応募がなく苦勞しているのが実情のようだ。多くのゴルフ場が同制度を利用したSDGs宣言をすればお客様の認識も変わり、ゴルフ場としても環境貢献度をアピールしやすくなるかもだ。

同倶楽部は、再生可能エネルギーの太陽光発電にも取り組んでいる。一方でCO₂排出は場内の車使用、館内のボイラー使用など限られており、事業としては排出より吸収が大きく上回る。多くのゴルフ場が多量のCO₂吸収を行っているのは間違いなく、それが広まればゴルフ場に対する一般消費者の見方も大きく変わっていくに違いない。

ただ森林整備がうまく推進できなかったのは町長の理解があつたからだという。ジュンクラの方は補助制度が進んでいない。それに屋根の太陽光発電を増設しようと補助金の申請をしたが、大規模事業者が優先されて順番が回ってこない。SDGsを推進している企業が恩恵を受ける制度にも期待している。

30年間変わらぬホスピタリティ その源泉とは？

ところで、ゴルフ場事業の方はどうなのだろうか？

「コロナの感染者数が増えたり、まん延防止措置等になると宿泊やコンベンが減少します。まだ目標の年間4万人には届きませんが、ゴルフ場の利用者数自体は戻っている」という。

特に口べ倶楽部は、武家屋敷風の「長屋門」、竹林を抜け本屋敷のクラブハウスに入る造りで、館内には宿泊者向けの少しレトロな和風レストラン、またコース側に面して建つサンタフェ風テラスレストランでお



フロントは感染防止の亚克力板以外間仕切りがなく、従業員にも声をかけやすいオープンな雰囲気

トランでお屋をいたたく和洋折衷の異空間で、女性人気は絶大だ。女性の利用者は昨年比数パーセント増えて22、23パーセントを占める。女性が増え

わかる通り
 抜群。ロペ
 倶楽部は接
 待利用も多
 いことから
 社用族や女
 性にも好ま
 れるプレー
 しやすい環



ロペ倶楽部はリゾート、ジュンクラシックCCはアスリート向けと棲み分けの方向に



レストランも人気
 昼食はサンタフェ風のテラスレス
 トランで。自慢の洋食やハウス

「従業員にはお客様に何うと
 するように努
 めています」
 と話してい
 る。長屋門
 をくぐれば
 多くの従業
 員から声が
 かかる。全
 従業員数は



ロペ倶楽部は泊りも定番。クラブハウス内の居酒屋風レストランが語ら
 いの場に
 約90名で、うちキャディは16名と
 少なくなつたが、伝統のホスピタ
 リティはSDGsを推進すること
 で働きやすい環境とES、CSを
 高められていくに違いない。
 周りのゴルフ場とは一段上を行
 くホスピタリティと料金体系は、
 需要があるからこそ持続してきた
 ものだらう。SDGsのステップ
 にはDXに
 よる省力化
 も視野に入
 るはずだが、
 同倶楽部で
 は人での接
 客がホスピ
 タリティの
 源として人
 員を減らす
 考えはない
 という。

て男性もゴルフを始める相乗効果
 を感じており、後はジュン、ロペ
 の知名度を上げて、ファンを増や
 したいとしている。
 トーナメントを開催していたこ
 ろと比べ、アパレルのジュンがゴ
 ルフ場を運営していることを知ら
 ない人も増えているという。この
 ためメディアやSNS等を利用し
 た露出や、目新しいものを出せる
 ように工夫したいとしている。
 何より、利用した人の満足度の
 高さはネットのクチコミを見ても

「必ず契約に繋
 がります」と言われているようだ。
 開場当時は「土日で4万円、泊
 まつて5万円でした。プレー料金
 は当時より、だいぶ下がっています
 が、ホスピタリティは30年来変わ
 っていません」と話している。
 しかも「サンダル、下駄履きは
 ご遠慮していただいています。創
 業者の意向でアパレルだけにド
 レスコードはフリーです」とリゾ
 ートらしい寛げる雰囲気がある。
 ヤクルトなどのフリードリンク

100円での提供、レストランで
 の洋風パスタ料理と山梨の自社ワ
 イナリーで育てたワイン、お風呂
 での靴磨きサービスなど他にはな
 い伝統的なサービスは健在だ。
 最後にジュングループのホスピ
 タリティの源泉について何うと
 「従業員にはお客様に何うと
 するように努
 めています」
 と話してい
 る。長屋門
 をくぐれば
 多くの従業
 員から声が
 かかる。全
 従業員数は



ウエ（最洋
 口（浅地
 ドロ（ABC
 アン（キャ
 ジュ（マイ
 年の三コ
 昨は約リ
 ア契終戦
 枯

境づくり、ジュ
 ンクラシックC
 Cは競技志向者
 も満足できる設
 定に方向づけし
 ている。ロペ倶
 楽部でいつも接
 待に利用してい



入浴中に無料のシューズ
 クリーニングサービスで
 靴がピカピカに。ヤクル
 ト無料も健在。天然温泉
 の露天風呂やサウナ完備



13番の茶店では冬場に甘酒やミ
 二たい焼きのサービス

